

東濃信金理事長に加知氏

市原氏は
会長

東濃信用金庫は1日、市原好二理事長(67)が代表権
の常務(59)が理事長に就任



理事長に就任する加知康之氏(左)と、
会長に就く市原好二氏＝多治見市本
町、東濃信用金庫本店

するトップ人事を発表し
た。16日の総代会と理事会
を経て就任する。同金庫の
理事長交代は2009年以
来、12年ぶり。

多治見市本町の本店で会
見した市原氏は、新しい本
店の12月の完成、来年1月
の創業100周年を控え、
「新体制で新しい局面に向
かってほしい。地元密着の
信用金庫は長期的視点で経
営に当たるべき。加知さん
は若く人柄もいい」と交代
理由を説明。加知氏は「コ
ロナ禍により不透明感の強
い環境ではあるが、地域経

済の発展に寄与したい」と
抱負を述べた。
加知氏は可児市出身で中
京大法学部卒。1984年
入庫、理事総合企画部長、
常務管理統括第3本部長兼
人事部長を経て2020年
から常務管理統括第1本
部長。

市原氏は多治見市出身で
名古屋大法学部卒。日本銀
行京都支店長などを経て、
07年に東濃信用金庫に入
庫、09年から理事長。

市原氏は引き続き財界活
動を担い、多治見商工会議
所副会頭、全国信用金庫協
会経営対策委員、県経営者
協会副会長東濃支部長など
を務める。

加知氏 コロナ対応全力

市原氏 地域の人材育成

市原好二氏、加知康之氏
の主な発言は次の通り。

―理事長の任期中に注力
したことは。

市原 就任5年目に預金
量1兆円を達成し、多治見
市にとっしん学びの丘エー
ルを完成させた。地域の人
材育成と陶芸文化発信の場
として貢献できたのではな
いか。2019年には全国

* 一問一答 *

信用金庫協会から信用金庫
社会貢献賞Face to

Face賞を頂いた。ソ

フト面では女性活用に力を

入れてきた。常勤役員はま

だだが、支店長や本部課長

職で活躍してくれている。

―理事長として力を入れ

たいことは。

加知 金融機関を取り巻
く環境の変化に対応する。

攻めはコロナ禍に対応しつ

つ、顧客の困り事、要望を

しっかり聞いていく。守り

は改革や業務の集中化で本

部のスリム化を図り、人材

を顧客支援に回したい。

―加知氏登用の理由は。

市原 比較的若く、長期

的な視点で経営に当たるこ
とができる。地場産業が盛

んな地域など5支店をバラ

ンスよく経験しており、何

より人柄が素晴らしい。

―金融再編について、ど

のように考えるか。

加知 当金庫は自己資本

比率17%超と体力がある。

今のところ単独で問題なく

進めていける。